令和８年 11 月６日
海　上　保　安　庁

海上保安庁の大陸棚調査で発見された「ゴジラメガムリオン」が世界の「地質遺産 100 選」に認定

～海洋関連地質では初！～

海上保安庁の大陸棚調査で発見した「ゴジラメガムリオン」が、地球科学分野における世界最大級の国際学術組織である国際地質科学連合（IUGS）の会合において、「The Third 100 IUGS Geological Heritage Sites（地質遺産 100 選）」に認定されました。

本年 11 月４日から６日にポルトガルで開催された国際地質科学連合（International Union of Geological Sciences：IUGS）の会合において、「The Third 100 IUGS Geological Heritage Sites」が発表され、海上保安庁による大陸棚画定のための調査（大陸棚調査）によって発見された海底地形「ゴジラメガムリオン」が認定されました。今回の会合では、海洋に関連する地質学的に重要なサイトが初めて認定対象に加えられ、ゴジラメガムリオンがその一つとして認定されました。（参考１及び２参照）

地球科学研究に関する国際協力の推進を担う IUGS が認定する IUGS 地質遺産は、地球の形成や進化を理解する上で特に重要であり、世界的に高い学術的価値を有すると認められた地質学上の重要地点です。

今回の認定は、海底地形の発見、詳細な海洋調査、海洋情報の整備、国際的な地名標準化及び長年にわたる学術研究の成果が世界的に高く評価されたものです。また、海上保安庁が整備した海洋情報が国際的な研究基盤として活用され、その成果が世界的な地質遺産として認められたことを示すものであり、我が国の海洋調査及び海洋科学研究への貢献を象徴する成果です。

【参考１】

１　IUGS 地質遺産について

IUGS は、地質学的に国際的意義を有する地点を顕彰するとともに、その保全及び普及啓発を促進することを目的として、2022 年から「IUGS Geological Heritage Site」の認定を開始し、世界各地の重要地点を 100 か所ずつ認定しています。

今回の認定は、2022 年の「First 100」、2024 年の「Second 100」に続く第 3 回目の認定です。日本からもこれまで複数の地質遺産(※)が認定されており、今回新たにゴジラメガムリオンが加わりました。

今回、海洋に関連する地質学上重要なサイトが初めて認定され、ゴジラメガムリオンのほか、チャレンジャー海淵、第一鹿島海山、房総沖三重会合点、ロドリゲス三重会合点及びガラパゴス熱水系の６つが認定されました。

※玄武洞（兵庫県）、野島断層（兵庫県）、喜界島完新世サンゴ礁段丘（鹿児島県）、平成新山（長崎県）

２　ゴジラメガムリオンの認定について

今回の認定は、その学術的重要性に加え、我が国が長年にわたり実施してきた海洋調査及び海洋科学研究の成果が国際社会において高く評価されたものであり、海洋地質学分野における我が国の貢献を示すものです。

本件は海底地形の発見から詳細海洋調査、国際的な地名登録、学術研究及び国際的な認知へと発展した代表的な事例であり、海洋情報の整備及び国際標準化が科学の発展と国際社会における知識共有に果たす重要な役割を示しています。

さらに、海上保安庁による海洋調査で得られた成果が世界的な研究対象として活用され、地質遺産として国際的な評価を受けたことは、海洋情報が人類共通の知的基盤として活用される好例といえます。

【参考２】

ゴジラメガムリオンとは

メガムリオンとは、海底拡大に伴う大規模な正断層活動によって地殻の下にあるマントル物質が海底面に露出して形成されたドーム状の高まりであり、その表面に特徴的な畝状構造を持つことが知られています。

ゴジラメガムリオンは、2001 年、海上保安庁による大陸棚画定調査の際に沖ノ鳥島南東方で発見されました。その大きさは長さ約 125km、幅約 55km に達し、東京都の面積の約 3 倍、他のメガムリオンの約 10 倍に及ぶ、地球上最大のメガムリオンです。その巨大さから、日本が世界に誇る東宝怪獣「ゴジラ」の名にちなみ命名されました。

ゴジラメガムリオンは、世界の海底地形名を標準化するための学術委員会である海底地形名小委員会（SCUFN）において、令和 3 年（2021 年）に「ゴジラメガムリオン地形区」として国際登録され、さらに令和 4 年（2022 年）には構成する 14 の個別地形名が国際登録されました。世界に分布するメガムリオンの中で、名称が国際的に登録されたのはゴジラメガムリオンが初めてです。

ゴジラメガムリオンは海洋底科学における重要な研究対象であり、日本を中心とする国際研究グループによる長年の調査により、フィリピン海プレートの形成過程や上部マントルの組成・構造に関する重要な研究成果が得られています。今回の地質遺産認定は、こうした研究の蓄積によってゴジラメガムリオンが世界的な学術的基準地点の一つとして高く評価されたことを示すものです。

参考：https://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/KENKYU/index.html

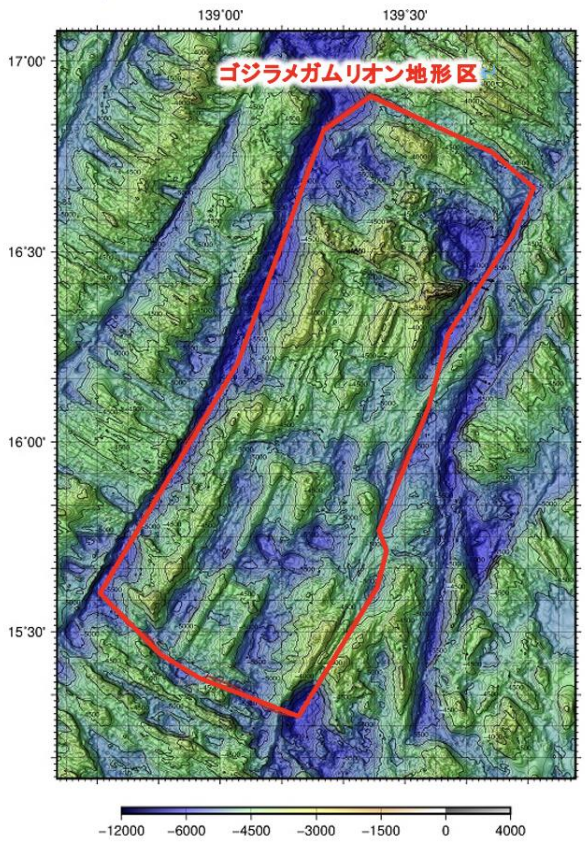


図 1-1：ゴジラメガムリオン地形区全体図

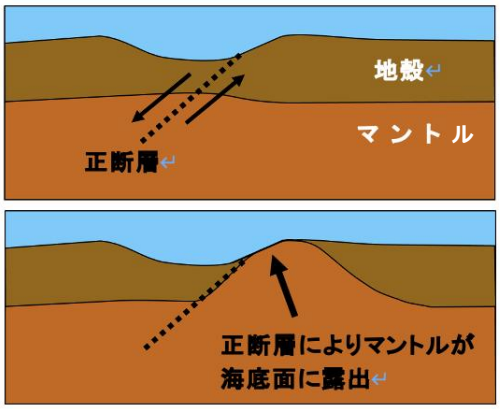


図 1-2：メガムリオンの成因（Tuchokle et al., 1998 の図を改変）
正断層により、地殻の下のマントルが海底面に露出し、メガムリオンが形成される。